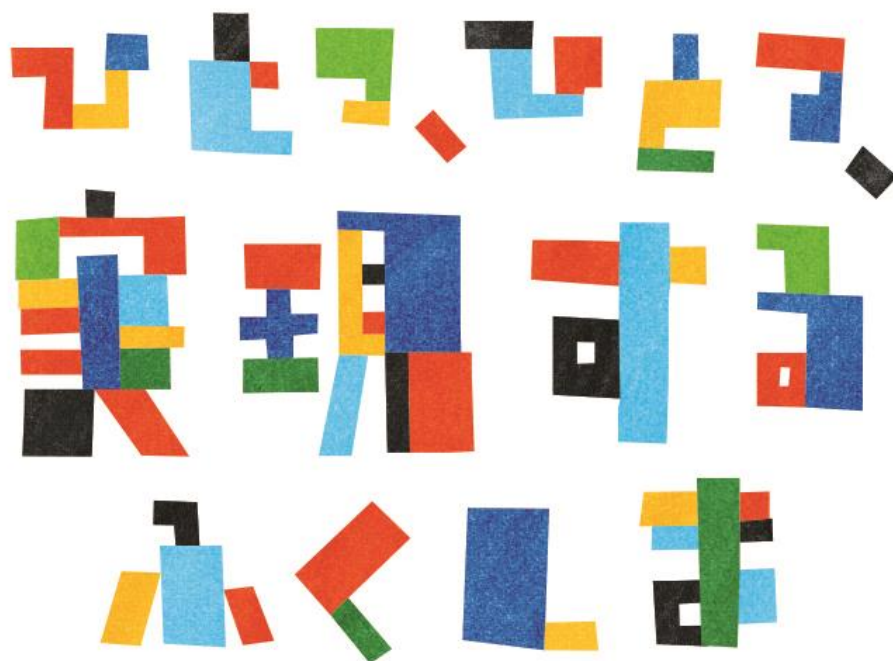


事業計画

令和4年度



福島県ハイテクプラザ

FUKUSHIMA TECHNOLOGY CENTRE

福島県ハイテクプラザ事業計画

令和4年度

目次

1	福島県ハイテクプラザ組織と事業方針	1
1-1	福島県ハイテクプラザ組織	1
1-2	ハイテクプラザの果たす役割	2
1-3	五年後の目指す姿	2
1-4	基本方針	2
1-5	中期ビジョンの基本活動	2
1-6	集約・再編強化に係る取り組み	2
2	事業計画概要	3
2-1	企業支援業務	3
	【しごとづくりプロジェクト】（全2事業：2-1-1～2-1-2）	
2-1-1	【一部新】開発型・提案型企業転換総合支援事業	3
	【新】ひとつ、ひとつ、実現するものづくり企業支援事業	
2-1-2	ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業	3
	AI・IoT活用促進事業	
	【産業推進・なりわい再生プロジェクト】（全4事業：2-1-3～2-1-6）	
2-1-3	航空宇宙産業集積推進事業	3
2-1-4	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業	3
	再生可能エネルギー関連技術指導事業	
2-1-5	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業	4
	福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業	
2-1-6	放射能測定事業	4
	【避難地域等復興加速化プロジェクト】（全1事業：2-1-7）	
2-1-7	【新】廃炉関連産業集積基盤構築事業	4
	【新】廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業	
	【一般事業】	
2-1-8	技術支援	5
2-1-9	依頼試験	5
2-1-10	技術移転	5
2-1-11	酵母開発・頒布	5
2-1-12	施設・設備等の開放	5
2-1-13	研究成果発表会	5
2-1-14	研究会活動	5
2-1-15	技術者研修・講習会等	5
2-1-16	講師派遣	5
2-1-17	機器整備	5
2-2	技術開発業務	6
	【しごとづくりプロジェクト】（全1事業：2-2-1）	
2-2-1	【一部新】ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業（一部再掲）	6
	（1）人・ロボット協働による工場スマート化支援事業	
	①AIを活用した人とロボットの協働による工場のスマート化支援	
	（2）【新】通信障害に強い無線通信ネットワーク開発事業	
	①【新】通信障害に強い無線通信ネットワークの製造現場適用化研究	

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】（全3事業：2-2-2～2-2-4）

2-2-2	【一部新】福島新エネ社会構想等推進技術開発事業（一部再掲）	6
	（1）【一部新】ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業	
	① 高圧水素タンクの充填時検査技術の開発	
	② 【新】 端面で電気接続する両面受光型太陽電池パネルと加飾技術の実証	
	③ 【新】 風力発電ブレード部材の迅速耐久性評価と予知保全技術の開発	
2-2-3	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業（一部再掲）	7
	（1）ロボットビジョン技術活用促進事業	
	① 自律走行外観検査ロボットの研究開発	
	② ロボットビジョン技術を搭載したドローン実演機の試作とロボットテストフィールドでのフィールド実証	
	（2）ロボット部材研究開発事業	
	① 3次元金属積層によるアルミ合金構造体の機械的特性に関する研究	
2-2-4	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	7
	① 適切な上槽時期の判断による県産酒の高品質化	

【一般事業】

2-2-5	【一部新】基盤技術開発支援事業	8
	（1）【新】福島・いわき地域支援プロジェクト	
	① 【新】ふくしま繊維関連技術開発促進プロジェクト	
	② 【新】化学プラント保全技術高度化プロジェクト	
	（2）【一部新】個別研究課題	
	① オリジナル蚕品種の高付加価値シルクデニット素材開発	
	② 漆製品に用いる立体模様シートの評価	
	③ 輸入大豆の特性と味噌への加工適性評価	
	④ 果樹剪定枝を原料とした染色における品質安定化の研究	
	⑤ 漆塗料の高機能化とその活用に関する研究	
	⑥ 【新】樹脂含浸と熱圧成形による木材の高耐久化	
2-2-6	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	9
	① 太陽光利用めっき廃液処理システムの実用化研究	
2-2-7	科学技術調整会議共同研究事業	9
	① 【新】福島県産ナシの加工特性の解明	
2-2-8	外部資金等活用	9
2-2-9	共同研究等	9

2-3 その他の関連業務 10

2-3-1	「つながる研究室」の活用	10
2-3-2	大学院との連携	10
2-3-3	地域との交流	10
2-3-4	インターンシップ（研修生）の受入	10
2-3-5	市町村等との連携	10
2-3-6	広報活動	10
2-3-7	【新】「そだてる研究室」	10

3 中期ビジョンとの関係 11

4 福島県ハイテクプラザの位置（各技術支援センターを含む） 12

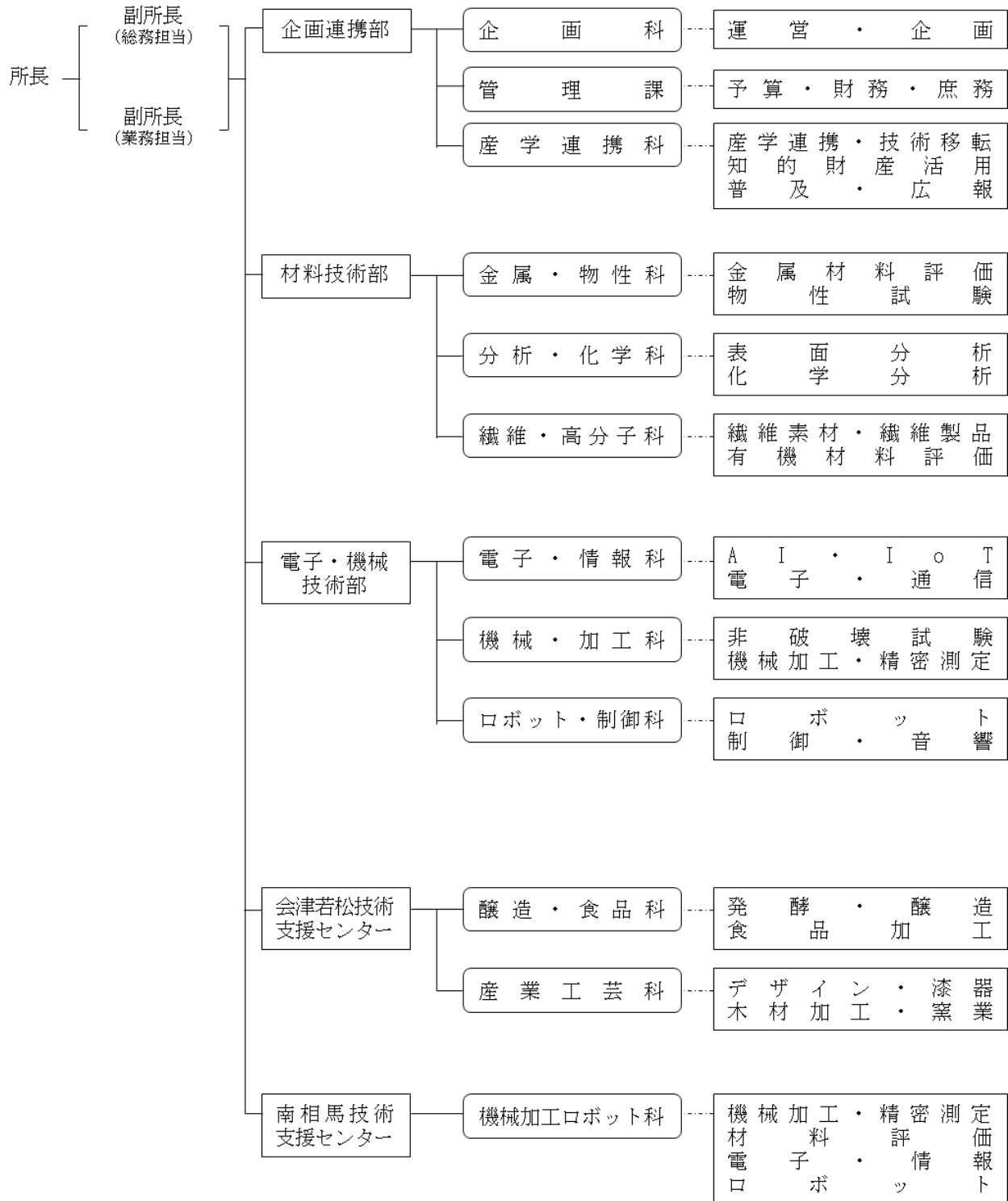
※県の重点プロジェクトを【】で記し、プロジェクトに含まれる事業をその下に記す。

※各事業について令和4年度新規事業を【新】、一部新規事業を【一部新】で記す。

1 福島県ハイテクプラザ組織と事業方針

1-1 福島県ハイテクプラザ組織

今年度の集約・再編強化に伴い、組織を以下のとおりに改めた。郡山本部、会津及び南相馬の三か所に拠点を置くことで、特に郡山本部の技術支援機能を強化する。



※再生可能エネルギー・水素導入、廃炉、航空宇宙、医療機器、環境・リサイクル等の分野は、部門横断型の支援対応を実施する。

1-2 ハイテクプラザの果たす役割

「企業に対する技術支援、成長産業への先導」

「福島イノベーション・コースト構想や再生可能エネルギー・水素普及促進等、
本県重点施策への貢献、地域に根ざした従来産業の振興」

「次代を担う技術者の育成」

「技術情報の収集と発信、企業と研究機関や支援機関との橋渡し」

1-3 五年後の目指す姿

- ① 多様な技術や急速な技術の進歩、変化にも素早く対応できる組織体制
- ② ロボット、再生可能エネルギー、水素等の成長産業においても県内企業を先導できる高い技術力
- ③ 県内ものづくり産業を支える企業技術者の育成拠点
- ④ 県内企業への技術情報の発信基地

1-4 基本方針

ハイテクプラザの基本理念である「技術支援を使命とする開かれた産業支援機関」を実現すべく、「福島県ハイテクプラザ中期ビジョン」（計画期間：令和4年度～令和8年度）に基づき、当所の果たす役割を遂行する。そのため、五年後の目指す姿へ向かって機能強化を図り、4つの基本活動（「研究開発」、「技術支援」、「人材育成」、「情報の収集と発信」）に則った事業展開を行うことで、県内企業の技術支援をはじめとしたものづくり産業の技術的諸問題の解決に取り組む。

1-5 中期ビジョンの基本活動

(1) 研究開発

県の重点施策に沿った分野、基盤技術分野及び地域特有の基幹産業分野の研究開発に取り組み、企業へ成果を移転する。

(2) 技術支援

支援メニューである技術相談、依頼試験・設備使用、企業訪問等の取り組みを強化し、これらの活動を通して企業の技術課題の解決を図る。

(3) 人材育成

職員の技術支援力を強化するために、組織的な人材育成に取り組む。

(4) 情報の収集と発信

最新の技術動向や鮮度の高い情報の収集に努めるとともに、それらの情報を企業目線でわかりやすく発信する。

1-6 集約・再編強化に係る取り組み

本年度の集約・再編強化に伴い、福島・いわき地域をはじめとした地域特有のニーズに合わせたきめ細やかな支援を実施すると共に、郡山本部を中心に県内企業に必要とされる新たな機器を整備することで、基盤技術はもとより新たな産業分野に対応できるよう、ハイテクプラザの機能を強化する。

また、次ページ以降に概要を掲げる事業以外にも、本年度からの新たな取り組みとして、事業を推進するためのワーキンググループや、部門横断型研究体制の整備などを行い、集約の効果を最大化すべく所内の体制を強化する。

中期ビジョンについては「福島県ハイテクプラザ中期ビジョン」（計画期間：令和4年度～令和8年度）を参照。（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32410a/plan.html>）

2 事業計画概要

2-1 企業支援業務

【しごとづくりプロジェクト】(全2事業：2-1-1～2-1-2)

2-1-1 【一部新】開発型・提案型企業転換総合支援事業

【新】ひとつ、ひとつ、実現するものづくり企業支援事業

開発型・提案型企業転換総合支援事業の一環として、県内企業等の技術課題解決及び製品開発について、技術指導等の支援を行うことで企業競争力の強化を図る。

開発型企業発掘事業

企業訪問等により、開発意欲のある企業を発掘するとともに、技術課題の抽出及び解決を図る。

目標件数	訪問企業数220社以上
------	-------------

開発支援事業

企業が直面している技術的課題(テーマ)をハイテクプラザが代わりに解決し、その成果を技術移転することで企業の製品開発を支援する。

目標件数	テーマ数15件以上
------	-----------

現場支援事業

企業の製造現場に職員・外部講師を派遣または、ハイテクプラザに企業の従業員を受入れ、企業の抱える課題解決のため、人材育成等を支援する。

目標件数	支援件数30件以上
------	-----------

2-1-2 ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業

AI・IoT活用促進事業

ハイテクプラザが運営するふくしまAI・IoT技術研究会やAI・IoT実証設備を活用し、県内企業等のAI・IoT活用を支援する。

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】(全4事業：2-1-3～2-1-6)

2-1-3 航空宇宙産業集積推進事業

航空宇宙産業に関連した情報の提供、専門の講師による講演会の開催、関連団体と会員企業間の情報交流等を実施する。また、ハイテクプラザに導入した非破壊検査機器や5軸加工機等を使用した研修を実施し、県内企業等の航空宇宙産業への参入を支援する。

2-1-4 福島新エネ社会構想等推進技術開発事業

再生可能エネルギー関連技術指導事業

「福島新エネ社会構想」を踏まえ、「再エネの導入拡大」「水素社会実現のモデル構築」の実現に向け、ハイテクプラザ保有技術の実技指導を通して企業の技術力を高め、再生可能エネルギー関連産業を育成・支援する。

2-1-5 チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業

原子力発電所の廃炉への県内企業等の参入を支援・促進するとともに、蓄積した技術・製品を災害対応分野に展開するため「福島県廃炉・災害対応ロボット研究会」を設置し、展示実演会や技術セミナー等を通じて、関連機関との情報交換やネットワーク構築に取り組む。

2-1-6 放射能測定事業

風評被害への対応として、県内企業等を対象に工業製品の放射線量測定と加工食品の放射能測定を行い、検査に伴う事業者の負担軽減、検査の迅速化及び検査精度の向上を図る。

【避難地域等復興加速化プロジェクト】(全1事業：2-1-7)

2-1-7 【新】廃炉関連産業集積基盤構築事業 【新】廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業

ハイテクプラザの技術支援体制の強化を図り、技術セミナーの開催や巡回訪問を実施し、元受け企業が求める技術水準に引き上げることで、更なる県内企業の参入を後押しする。

【一般事業】

2-1-8 技術支援

県内企業等が抱える課題等に対して、個別面談、電話、メール、ウェブ相談窓口及びインターネットを利用したオンラインでの面談を活用して、技術相談に対応する。

2-1-9 依頼試験

県内企業等の要望に応じ、各種の試験・分析を行い、迅速かつ正確な試験結果を提供する。

2-1-10 技術移転

ハイテクプラザが保有する技術や研究開発の成果を、学会誌等への論文投稿や各種展示会への出展により広く公開するとともに、企業訪問や各種広報活動を通じて県内企業等に周知・提供し、新たな製品開発や技術課題の解決に繋げる。

2-1-11 酵母開発・頒布

県内企業等が使用する酵母について、ハイテクプラザ会津若松技術支援センターが研究・開発を行い、醸造に適した活性を持つ酵母を頒布する。

2-1-12 施設・設備等の開放

ハイテクプラザが保有する先端機器をはじめとした装置・機器類を県内企業等に対して開放する。

2-1-13 研究成果発表会

令和3年度にハイテクプラザが取り組んだ研究や指導事例について、研究成果発表会を開催しその成果を広く県内企業等に普及・周知する。

2-1-14 研究会活動

ものづくり基盤技術のうち、技術の高度化が著しい分野を中心として研究会を開催し、新技術情報収集や技術勉強会、課題討論等を行う。

2-1-15 技術者研修・講習会等

(公財)福島県産業振興センター等と連携し、県内企業等を対象として、先端技術の普及をはじめとした研修・講習会を企画・開催する。

2-1-16 講師派遣

県内市町村の商工団体、産業支援機関等で実施している技塾等の技術研修に、講師として派遣し講義・実習等の指導を行う。

2-1-17 機器整備

集約に伴い、企業の新産業分野への参入促進に必要な先端機器や製品開発段階で必要となる設備を計画的に導入・更新・整備することで、技術支援、依頼試験、施設・設備等の開放及び試験研究等の機能強化を図る。

2-2 技術開発業務

【しごとづくりプロジェクト】(全1事業：2-2-1)

2-2-1 【一部新】ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業（一部再掲）

協働ロボットによるテストベッドや、特定小電力無線（LPWA）の利用などを通して、県内企業等のAI・IoT導入を支援する。

(1) 人・ロボット協働による工場スマート化支援事業

研究課題	研究内容
① AIを活用した人とロボットの協働による工場のスマート化支援 (R3～R5)	人とロボットが協働してバリ取り等の作業を行うテストベッドを構築することにより、企業の現場に導入した場合を想定した効果検証を可能とし、企業への協働ロボット導入を支援する。

(2) 【新】通信障害に強い無線通信ネットワーク開発事業

研究課題	研究内容
① 【新】通信障害に強い無線通信ネットワークの製造現場適用化研究 (R4～R6)	長距離通信可能で電波遮蔽や干渉に強い920MHz特定小電力無線（LPWA）を用いて、製造現場で容易に利用できる無線通信ネットワークを構築する。また、これを実際の製造現場へ導入し、機能検証を行う。

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】(全3事業：2-2-2～2-2-4)

2-2-2 【一部新】福島新エネ社会構想等推進技術開発事業（一部再掲）

福島新エネ社会構想の実現に向け、県内企業等の有する要素技術の高度化を支援する目的で、再生可能エネルギーに関する製品開発や技術の実用化に向けた研究開発を関係機関と連携して実施する。

(1) 【一部新】ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業

研究課題	研究内容
① 高圧水素タンクの充填時検査技術の開発 (R3～R5)	水素関連施設で使用する高圧水素タンクの欠陥の有無を診断する「充填時検査技術」を開発する。これにより、高圧水素タンクの点検間隔を最適化することで、水素ステーション等での運用コストの削減を目指す。
② 【新】端面で電気接続する両面受光型太陽電池パネルと加飾技術の実証 (R4)	バイパスダイオードを内蔵したフラットな両面受光型太陽電池パネルを開発する。また、意匠性の高い太陽電池パネルの設置方法を開発し、県内のパネル及び部材メーカーに技術移転を図る。
③ 【新】風力発電ブレード部材の迅速耐久性評価と予知保全技術の開発 (R4～R6)	風車ブレード部材の劣化メカニズムを解明し、耐久性を短時間で評価する試験方法を確立するとともに、非破壊検査データと紐づけた予知保全技術の開発を行い、県内メンテナンス産業の振興を図る。

2-2-3 チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業（一部再掲）

震災からの産業復興のため、次世代の新たな産業分野であるロボット産業の集積を目指し、ハイテクプラザにおいてロボットの要素技術開発を実施する。

(1) ロボットビジョン技術活用促進事業

研究課題	研究内容
① 自律走行外観検査ロボットの研究開発 (R3～R5)	目視と聴覚による点検・モニタリングを省力化し人手不足を補うことを目的に、ロボットビジョンによる外観検査及び異音の音源方向検出を可能とする自律走行外観検査ロボットの研究開発を行う。
② ロボットビジョン技術を搭載したドローン実演機の試作とロボットテストフィールドでのフィールド実証 (R3～R5)	ロボットビジョン技術を活用した実演機の試作とロボットテストフィールドでのフィールド実証を行うとともに、講習会により技術者育成を行い、中小企業のロボット産業分野への参入を支援する。

(2) ロボット部材研究開発事業

研究課題	研究内容
① 3次元金属積層によるアルミ合金構造体の機械的特性に関する研究 (R3～R4)	ロボットテストフィールドに設置されているワイヤーアーク方式金属積層造形装置を用いた複雑3次元形状物の作製や複数のアルミ合金が混在したロボットアームの試作を通して、アルミ合金積層造形時の機械的特性等を把握する。

2-2-4 福島県オリジナル清酒製造技術の開発

県産原料を用いた県産清酒の多様化と更なる高品質化による県産品振興を図るため、県産酒の明確な特徴化・他地域との差別化を目指した醸造技術を開発する。

研究課題	研究内容
① 適切な上槽時期の判断による県産酒の高品質化 (R2～R4)	県オリジナル酵母と県産酒造好適米を用いたオールふくしま清酒の最適な製造技術等を開発し、酒造メーカーへの成果移転を通して、県産清酒の更なる高品質化と販路拡大を図る。

【一般事業】

2-2-5 【一部新】基盤技術開発支援事業

震災からの復興やグローバル化などの課題に直面している地域産業の振興のため、地域特有のニーズに合わせたきめ細やかな支援を実施するとともに、先導的技術や独自技術の開発等に取り組み、その研究成果を技術移転する。

(1) 【新】福島・いわき地域支援プロジェクト

プロジェクト	内容
① 【新】ふくしま繊維関連技術開発促進プロジェクト (R4～R6)	県内繊維産業が得意とする衣料品分野の開発力・販売力向上を図るとともに、環境や医療等の成長産業に素材としての繊維製品の提案を支援することにより、県内繊維産業の高付加価値型・開発型企業への転換を図る。
② 【新】化学プラント保全技術高度化プロジェクト (R4～R6)	いわき地域に集積する化学工場の保守・修繕の需要増に地元企業が対応できるよう、溶接技術や評価技術等の技術力向上を図る人材育成や企業間ネットワーク構築を実施する。

(2) 【一部新】個別研究課題

研究課題	研究内容
① オリジナル蚕品種の高付加価値シルクデニット素材開発 (R2～R4)	撚糸加工を施さなくても十分な伸縮性を持つシルクデニット糸の加工技術を、繊維関連企業に幅広く普及、技術移転することを目的に、織物、ニット用の加工糸を新たに開発する。併せて企業ニーズに沿った加工糸の提供と製品試作を支援することで県内繊維産業の風評払拭及びイメージ回復を目指す。
② 漆製品に用いる立体模様シートの評価 (R3～R4)	特許を取得した立体模様製造方法の実用化のため、成形した立体模様シートの素材の組み合わせの選定と、漆の付着状態の評価を行う。製品を想定した立体模様をデザインし、試作製作を行う。
③ 輸入大豆の特性と味噌への加工適性評価 (R3～R4)	味噌に用いる輸入大豆の多くは中国産であるが、中国国内の需要拡大に伴い輸入が困難になりつつある。そこで、中国産以外の輸入大豆の加工特性を評価し、高品質な味噌の製造方法を確立する。
④ 果樹剪定枝を原料とした染色における品質安定化の研究 (R3～R4)	剪定枝等の天然物を染材とした天然染色において、色の再現性は重要な課題である。そこで、剪定枝から抽出した染料や色素を、紫外可視分光光度計や薄層クロマトグラフィーなどで分析し、特性に合わせた抽出、染色条件を選出することで、色の再現性の高い染色工程を確立する。

<p>⑤ 漆塗料の高機能化とその活用に関する研究 (R 3～R 5)</p>	<p>漆塗料に対する食洗機耐久性評価や水・金属イオン添加による機能性評価を行うことで、現代の加飾技術への適用や、これまでの製造工程を大きく変えることなく、会津の伝統技法を活用した食洗機対応漆器を提案する。</p>
<p>⑥ 【新】樹脂含浸と熱圧成形による木材の高耐久化 (R 4～R 5)</p>	<p>社会背景から、様々な工業製品の素材を再生可能な資源へ代替することが求められている。再生可能な資源である木材を、樹脂とともに熱圧成形し、高い耐久性を見込める複合材料を製作する。また、製品への適用を想定し、素材の性能値を明らかにする。</p>

2-2-6 産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業

産業廃棄物対策をはじめとした循環型社会の構築のため、産業廃棄物排出事業者から技術面からの支援を行うことにより、産業廃棄物減量化・再資源化を図る。

研究課題	研究内容
<p>① 太陽光利用めっき廃液処理システムの実用化研究 (R 3～R 4)</p>	<p>太陽光発電の不安定な直流電力を直接利用して、めっき廃液の減量と重金属の回収を行うシステムを開発する。無電解ニッケルめっき廃液の処理において廃液減量率とニッケル回収率を向上させ、企業活動のスケールまで大型化させる。</p>

2-2-7 【新】科学技術調整会議共同研究事業

県内8つの試験研究機関との協力・連携強化を図ることを目的として設置する科学技術調整会議による体制強化を図るため、各分科会の活動を実施する。

研究課題	研究内容
<p>① 【新】福島県産ナシの加工特性の解明 (R 4～R 6)</p>	<p>県内で生産されるナシを対象に原料果の特徴や果肉及び果汁の加工特性を明らかにし、ナシ加工品開発の一助となる基礎的知見を得ることを目標とし、最終的には、成果の普及を進めて県内食品業者によるナシの新たな加工品開発に繋げる。</p>

2-2-8 外部資金等活用

企業における事業化を促進するため、企業等からの研究委託や競争的資金制度などの外部資金等を活用してハイテクプラザで各種研究を実施し、それにより蓄積された研究成果の技術移転を図る。

2-2-9 共同研究等

ハイテクプラザが大学等研究機関や県内企業等と共同で、産業振興に寄与する研究開発を行い、複雑化・高度化し、多分野にわたる新技術の開発や技術的課題の解決を図ることで、製品化・技術の導入につなげる。

2-3 その他の関連業務

2-3-1 「つながる研究室」の活用

ウェブ会議システム「つながる研究室」を活用したジャストインタイムの技術相談や試験・研究支援、オンデマンドのウェブセミナーにより、企業支援におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する。

2-3-2 大学院との連携

福島大学等の県内大学において、客員教授等として大学院生の教育研究指導にあたる。

2-3-3 地域との交流

次世代のものづくりを担う若年世代を対象に、ハイテクプラザの役割や機能について理解を深めてもらうことを目的として一般公開「あつまれっ！ハイテクプラザ」や体験教室「見る！聞く！学ぶ！ハイテクプラザ」を開催する。一般公開では、施設の見学や子どもたちがものづくりや科学を体験できるワークショップを提供する。また、体験教室では、県内の高等学校等の生徒に対して、保有技術や設備を活用したものづくり現場の実際を学ぶ機会を提供する。

2-3-4 インターンシップ（研修生）の受入

県が実施する大学等の学生向けインターンシップのほか、県内の高等学校等の生徒に対して、ハイテクプラザの業務に係る研修や就業体験を行う。

2-3-5 市町村等との連携

技術的課題解決を必要とする県内各市町村及び商工団体等を訪問し、専門的なアドバイスを行う。また、ハイテクプラザで実施する事業の広報と各地域の情報発信を行う。

2-3-6 広報活動

県が主催する展示会や市町村等が開催する産業振興イベント等への積極的な出展のほか、各種団体の所内見学への対応及びホームページをはじめとした様々な広報媒体の活用等により、ハイテクプラザの役割・業務内容や研究成果等を企業目線で広くわかりやすく紹介することで、ハイテクプラザの認知度の更なる向上及び利用企業数の拡大を図る。

2-3-7 【新】「そだてる研究室」

職員に必要とされる技術支援能力を強化するために、年代別に必要なメニューを揃え、研究遂行能力、問題解決能力、独創性、現場理解、指導力を高めることで組織の機能強化を図る。

(1) 大学院博士課程派遣（研究遂行能力）

大学院博士前期課程（修士）及び後期課程（博士）に職員を派遣し、学位を取得させることで研究遂行能力を養う。

(2) 技術士等資格取得（問題解決能力）

技術士等の資格を取得させ、技術的な問題解決能力を身に付けさせる。

(3) 探究型研究開発（独創性）・企業等実地研修（現場理解）

若手研究員が可能性を探究する研究課題を提案し、実行することで独創性を育む。また、若手研究員に現場の実状を理解させることで、企業側の視点に立った技術支援を身に付けさせる。

(4) 企業等技術者受入研修（指導力）

県内ものづくり産業を支える企業技術者の育成拠点として、企業技術者、学生等を一定期間受け入れて、職員が講師となって研修を行う。

3 中期ビジョンとの関係

「福島県ハイテクプラザ中期ビジョン」（計画期間：令和4年度～令和8年度）に基づき、当所の果たす役割を遂行するにあたり、中期ビジョンと本年度事業との対応を示す。

(1) 中期ビジョンにおける4つの基本活動と取り組み

(1) 研究開発	(2) 技術支援	(3) 人材育成	(4) 情報の収集と発信
①研究開発分野のアプローチ	①技術相談機能の強化	①職員の技術力養成	①広報媒体の整備
②研究開発体制の整備	②設備の充実による依頼試験・設備使用の強化	②他機関との人事交流や職員派遣	②鮮度の高い情報の発信
③研究開発事業のマネジメント	③企業訪問の継続実施	③コンプライアンスの遵守	③研究会活動の活性化
④研究成果の普及	④他機関等との連携による支援	④コミュニケーション（情報伝達）能力の向上	④地域交流の実施
	⑤企業等の技術力育成		

(2) 中期ビジョンと各事業との対応

事業	(1) 研究開発				(2) 技術支援					(3) 人材育成				(4) 情報の収集と発信			
	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	①	②	③	④
企業支援業務	2-1-1				●		●		●								
	2-1-2						●	●	●						●	●	
	2-1-3							●	●						●	●	
	2-1-4							●	●						●	●	
	2-1-5							●	●	●					●	●	
	2-1-6					●											
	2-1-7							●	●						●	●	
	2-1-8					●											
	2-1-9						●										
	2-1-10				●									●			
	2-1-11								●								
	2-1-12						●										
	2-1-13				●									●	●	●	
	2-1-14				●				●	●				●	●	●	
	2-1-15								●	●				●	●		
	2-1-16								●	●				●			
	2-1-17						●										
技術支援業務	2-2-1	●	●	●	●												
	2-2-2	●	●	●	●				●								
	2-2-3	●	●	●	●				●								
	2-2-4	●		●	●												
	2-2-5	●		●	●			●	●	●							●
	2-2-6	●		●	●												
	2-2-7	●	●	●	●				●								
	2-2-8		●	●	●												
	2-2-9		●	●	●				●								
その他の業務	2-3-1				●			●									
	2-3-2								●								
	2-3-3							●					●	●			●
	2-3-4								●				●				●
	2-3-5					●		●	●				●				
	2-3-6					●			●				●	●	●		
	2-3-7									●	●	●	●				

4 福島県ハイテクプラザの位置（各技術支援センターを含む）

【福島県ハイテクプラザ】



【交通案内】

- ・郡山駅からタクシー利用
（約12km）約25分
 - ・喜久田駅からタクシー利用
（約5km）約9分
 - ・バス利用
郡山駅西口より
「西部工業団地行」乗車
「ハイテクプラザ」下車（約40分）
徒歩1分
 - ・東北自動車道
郡山ICより約7km（約10分）
- 【住所】 郡山市待池台1丁目12番地

【南相馬技術支援センター】



【交通案内】

- ・原ノ町駅からタクシー利用
（約4km）約10分
 - ・常磐自動車道
南相馬ICより約10km（約20分）
- 【住所】 南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番

【会津若松技術支援センター】



【交通案内】

- ・会津若松駅からタクシー利用
（約2km）約5分
 - ・磐越自動車道
会津若松ICより約3km（約6分）
- 【住所】 会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原88番1

福島県ハイテクプラザ事業計画

令和4年度（2022年度）

令和4年3月発行

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/hightech/>

E-Mail hightech-renkei@pref.fukushima.lg.jp

発行

福島県ハイテクプラザ

〒963-0297 郡山市待池台1丁目12番地

代	表	024-959-1741	
企	画	024-959-1736	
管	理	024-954-4968	
産	学	024-959-1741	
金	属・物性科	024-959-1737	
分	析・化学科	024-959-1738	
織	維・高分子科	024-959-1739	
電	子・情報科	024-954-4961	
機	械・加工科	024-954-4962	
ロ	ボット・制御科	024-954-4963	
F	A	X	024-959-1761

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

〒965-0006 会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原88番1

代	表	0242-39-2100	
醸	造・食品科	0242-39-2977	
産	業	0242-39-2978	
F	A	X	0242-39-0335

福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センター

〒975-0036 南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番

代	表	0244-25-3060	
機	械加工ロボット科	0244-25-3060	
F	A	X	0244-25-3061

編集

福島県ハイテクプラザ 企画管理科